

住民を守り、 支えた堤防。

役割。



住民が津波から逃れた寺島堤防、公民館への避難路となった中下堤防。

宮城県岩沼市の寺島地区は阿武隈川の河口部に位置する平地のため、近くに高い場所がない。大津波警報が発令されたとき、住民約50人は阿武隈川の寺島堤防に避難した。海からの津波と川を遡上する津波との挟み撃ちにあったが、波が堤防を越えることはなかった。住民は一人も犠牲者を出すことなく、堤防を経由して岩沼市民会館へと避難することができた。

また、松島市野蒜地区の住民約80人は、鳴瀬川河口付近にある野蒜築港資料館の2階に避難し、その後、中下堤防を通過して中下公民館に避難した。

どちらの堤防も耐震対策がなされており、地震と大津波に耐え、大きく被災することがなかった。



鳴瀬川 中下堤防の耐震対策



野蒜築港資料館
2階へ避難
(一次避難)

